

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

法人名	株式会社チャイルド・ピース
施設名	小鳩ナーサリースクール中馬込
施設所在地	大田区中馬込2-2-18

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光と影

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

本園では「夢中になって遊ぶ子ども～遊びを支える保育者の援助と環境について～」を令和7年度の園内研究主題として掲げている。1歳児から5歳児までが生活する中で、年齢や発達に応じて、自分の身の回りの環境に関心を持ち、遊びに取り入れる姿が見られる。

子どもは日々の遊びや生活の中で、太陽の光や室内の照明、物に映る影の動きなどに気づき、立ち止まって見たり、触れたりしながら確かめようとする姿が見られる。園庭はないが、室内環境や窓際の空間を通して、光や影の変化を感じ取る様子がうかがえる。

こうした子どもの興味や感覚を大切に、光の当たり方や影の形の違いを、日常の保育環境の中で無理なく味わえるようにしていきたい。子どもが自分なりに気づき、試す姿を保育者がそばで見守りながら関わっていけるよう、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

3歳児 2回(9月1回、2月1回) / 4歳児 1回(9月1回)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

【環境】 保育室内にセロファンを用いた壁面を設置したり、光の当たり方や影の向きを意識して物を配置したりすることで、日常の中でも光や影に気付ける環境を整えた。

【素材・道具】 書画カメラ(OHP)、スクリーン、プロジェクター、懐中電灯、おもちゃ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【②問いを考える】

保育室や公園で実際に影をつくって観察し、「これは何だろう」「どうやってできるのかな」と問いかけながら、影への興味につながるような声掛けを行った。

【③環境をデザインする】

保育室にスクリーンやプロジェクター、書画カメラを設置し、おもちゃを照らして影が映し出される環境を整えた。

【④探求活動を実践し、記録する】

身近な物を用いてスクリーンにシルエットを映し出したり、太陽の光が当たるところに物を置いて影が出来るのを楽しむ活動を行う。

子どもの取り組み様子を写真に収めたり、言葉や表情などをメモして、振り返りの際に活用できるようにした。

【⑤振り返る・共有する】

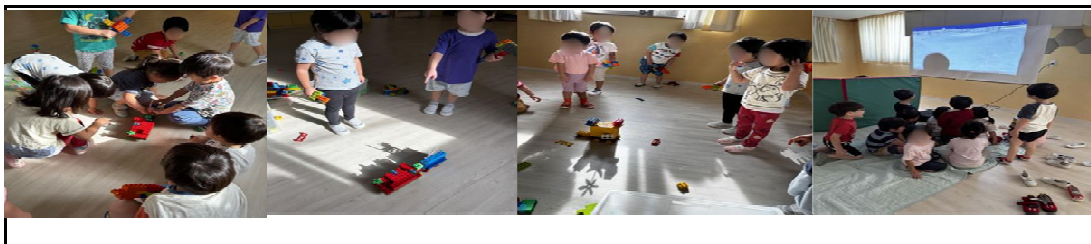
行った日中にクラス担任、主任、施設長等の保育者同士で感じたことや気づきを振り返ったり、写真を見て「どう感じていたか」などを子どもの目線に立って考えてみたりして振り返りを行った。話し合ったことをもとにすくわく会議で内容を周知した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

太陽の光でできた影が伸びて見えることに気づき、「変な形～」と言いながら関わる様子が見られた。そこから「長くつなげたらもっと伸びるかも」と考え、ブロックを長く組み立てて影の変化を確かめる姿もあった。

また、スクリーンに映し出された物の影（シルエット）を見て、形から何かを想像して答える子もいた。「なんで真っ黒なんだろう」と影の色に疑問をもつ子もあり、影の不思議さに触れながら関わる様子がかがえた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

スタンドグラスに当たる光の様子に関心をもっていた姿から、影にも触れられるよう計画し活動を行った。光の当たり方や物の置き方によって影の形が変わることに気づき、驚いたり、「こんな影ができるかもしれない」と考えながら試してみたりする姿が見られた。子どもたちの興味や関心をもとに活動を展開することで、関わりが広がっていくことを感じた。